

原 著

## 進行再発大腸癌に対する CPT-11併用 5FU/l-LV 療法の検討

赤池 信<sup>1)</sup>, 山本 裕司<sup>2)</sup>, 高橋 誠<sup>3)</sup>, 白石 龍二<sup>4)</sup>,  
 松川 博史<sup>5)</sup>, 牧野 達郎<sup>6)</sup>, 鈴木 弘治<sup>7)</sup>, 田村 功<sup>8)</sup>,  
 小澤 幸弘<sup>9)</sup>, 利野 靖<sup>10)</sup>

1) 神奈川県立がんセンター消化器外科, 2) 神奈川県立足柄上病院外科, 3) 恵生会上白根病院外科,  
 4) 国家公務員共済組合連合会平塚共済病院外科, 5) 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院外科,  
 6) 済生会横浜市南部病院外科, 7) 総合病院秦野赤十字病院外科, 8) 同友会藤沢湘南台病院外科,  
 9) 三浦市立病院外科, 10) 横浜市立大学医学部一般外科

**要 旨:** 多施設共同研究グループである神奈川中部大腸癌懇話会として, 進行再発大腸癌に対する CPT-11併用 5FU/l-LV 療法の有用性を検討したので報告する。[対象と方法] 測定可能病変もしくは評価可能病変を有する進行再発大腸癌で, PS0~1, 前治療未施行例, 術後再発例の場合は放射線療法または術後補助化学療法後 4 週間以上経過している症例を対象とし, 文書による同意を得て施行した。5FU/l-LV 療法については sLVFU2 療法を基本として CPT-11を併用した。投与量は bolus5FU 400 mg/m<sup>2</sup>, infusion5FU 2400mg/m<sup>2</sup>, l-LV200mg/m<sup>2</sup>, CPT-11 100mg/m<sup>2</sup>である。評価は, 抗腫瘍効果を RECIST による判定で, 安全性を NCI-CTC による有害事象判定により行った。[結果] 適格症例は17例で, 治療コース数の中央値は 8 コースであった。奏効率は17.6% (CR:0, PR:3, SD:12, PD:2), Disease-control rate (腫瘍増殖抑制率)は88.2%であった。有害事象としては, 血液毒性を白血球減少41.2%, 好中球減少23.5%に認めたが, Grade3/4 はそれぞれ23.5%, 11.8%であった。食思不振, 悪心, 嘔吐, 下痢, 口内炎などの消化器症状は, Grade1/2 のものを5.9%に認めた。[結論] 本臨床試験は安全に施行されたが, 中間解析の結果 CPT-11の投与量不足が考えられ, CPT-11併用による抗腫瘍効果の増強は認められなかった。

**Key words:** 進行再発大腸癌, 化学療法, 5FU/l-LV 療法, CPT-11, FOLFIRI 療法

Metastatic colorectal cancer, Chemotherapy, Treatment of fluorouracil with leucovorin, Irinotecan, FOLFIRI